

	<p>農学研究科 農学専攻 博士後期課程</p>
DP	<p>農学研究科農学専攻博士後期課程は、本学の立学の精神及び研究科の人材養成目的に基づき以下の資質・能力を身に付け、修了に必要な16単位以上を修得し、博士論文の審査に合格した学生に対して、博士（農学）の学位を授与します。</p> <p>①広く農学に関わる高度な学識・解析能力に加え、高い教養・倫理観を身に付けている。</p> <p>②独創的な課題を設定・解決し、世界の繁栄に貢献する実践力を身に付けている。</p> <p>③研究成果を世界に発信できる能力を身に付けている。</p>
CP	<p>農学研究科農学専攻博士後期課程は、研究科の人材養成目的を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身に付けさせるため、専修分野を「栽培植物生産学」「遺伝学」「生物保護学」「生物資源経済学」「生命科学」「食品科学」「分子化学」「生物制御科学」「環境生物学」「物質動態学」「環境修復・応答学」「ランドスケープ・デザイン学」の12分野に分け、コースワークとリサーチワークを適切に配置し、次の方針に基づいて教育課程を編成しています。</p> <p>①コースワークでは、「特殊講義」及びリテラシー科目を配置し、最新の科学に対応した専門分野及び関連分野の知識や技術を学ばせる。また、研究者の素養として、倫理的あるいは産業社会的知識を学ばせる。</p> <p>②リサーチワークでは、専修分野ごとに研究指導科目として「特殊研究」を配置し、研究発表・学術論文作成・博士論文作成等の指導を行う。この科目の履修を通して、専門技術者や研究者として必要な専門分野における研究能力と広い視野を有する能力を修得し、問題解決のために活かすことができるようにする。</p> <p>③コースワーク・リサーチワークともに少人数・双方向の授業体制及び能動的学修を実施することにより、発展的な研究課題に対する探求・解決能力及び論理的思考力を身に付け、専門技術者や研究者として他者との相互理解や意見交換ができるようにする。</p> <p>④シラバスにおいて指定した成績評価方法及び評価基準に基づき、厳格な成績評価と単位認定を行う。学位論文の審査については、農学研究科農学専攻の論文審査基準に基づき、客観性を担保し、厳格に審査する。また、指導教員が、学生の進路や関心に基づいた個別指導を行い、個々の達成度と学生自身の将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。</p>
AP	<p>農学研究科農学専攻博士後期課程は、研究科の人材養成目的を理解し、大学院修士課程などにおける学修を通して、次の能力・態度を身に付けている人を受け入れます。</p> <p>①博士後期課程での学修の基盤となる生命科学、食料・健康科学、環境科学、科学英語などに関する深い専門知識と応用力を身に付けている。</p> <p>②生物資源・生物生産、生命現象・食品機能、あるいは生物環境・環境保全などを扱う総合科学である農学を深く学ぶことに強い関心や意欲を持っている。</p> <p>③課題探求活動に積極的に取り組み、主体的、継続的、協調的に学修する力を身に付け、高度な専門技術者や研究者として社会に貢献し続ける意欲を持っている。</p>